

B型肝炎の予防接種を受けられる方へ

1. B型肝炎について

B型肝炎ウィルスの感染を受けると急性肝炎となり、そのまま回復する場合もあれば、慢性肝炎となる場合があります。一部、劇症肝炎で激しい症状から死に至ることもあります。主な症状は強い食欲不振・恶心・嘔吐・全身倦怠感・黄疸等です。また症状があらわれないままウィルスが肝臓の中に潜み、年月を経て慢性肝炎・肝硬変・肝臓がんなどになることがあります。

感染は、肝炎ウィルス陽性の母親から生まれる母子感染、肝炎ウィルス陽性の血液に直接触れる血液暴露、肝炎ウィルス陽性者との性的接触などで生じます。

2. 他のワクチンとの接種間隔

厚生労働省はこれまで、異なる種類のワクチンを接種する場合、一定の日数を空ける接種間隔を規定していました。この度、この規定が見直され、注射生ワクチン同士を接種する場合以外は、接種間隔の制限を撤廃することになりました。令和2年10月1日以降適応されます。

一方、同一ワクチンの接種間隔は従来どおりになりますのでご注意ください。

3. 次の方は接種を受けないで下さい。

- ① 明らかに発熱している方
- ② 重い急性疾患にかかっている方
- ③ B型肝炎ワクチンに含まれる成分によって、アナフィラキシーを起こしたことがある方
<アナフィラキシー反応とは>

急激に起こる蕁麻疹、口腔や咽頭のアレルギー性腫脹、喘鳴、呼吸障害
血圧低下 等のショック症状

- ④ その他、予防接種を行うことが不適当な状態にある方
(予診の結果、接種が不適当と考えられる場合は中止することがあります)
- ⑤ 妊婦または妊娠している可能性がある方

4. 次の方は接種前医師にご相談下さい。

- ① 心臓血管系、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、及び発育障害などの基礎疾患のある方
- ② 予防接種で接種後2日以内に発熱があった方及び全身性発疹などのアレルギーを疑う症状のあった方
- ③ 過去にけいれんの既往がある方
- ④ 過去に免疫不全の診断がなされている方及び近親者に先天性免疫不全症の方がいる方
- ⑤ B型肝炎ワクチンに含まれる成分に対してアレルギーを起こす恐れのある方

5. B型肝炎ワクチンの接種スケジュール

皮下注射にて3回接種します

- 1回目 0.5ml
- 2回目 0.5ml (1回目より4週後)
- 3回目 0.5ml (1回目より5~6ヶ月後)

※3回接種しても抗体ができない頻度は、成人の場合は約10%とされています。その人へは、それ以上のワクチン接種はせず、B型肝炎ウイルス暴露時には抗HBsヒト免疫グロブリンで対応することになります。

6. 接種後の副反応

注射部位の疼痛、腫脹（はれ）、硬結（しこり）、発赤、搔痒感、熱感などがあります。また、発熱・発疹・湿疹・搔痒・蕁麻疹・紅斑の過敏症症状、関節痛・筋肉痛・関節炎・肩こり・背部痛の筋骨格系症状、嘔気・下痢・食欲不振・嘔吐・腹痛の消化器系症状、頭痛・眠気・めまい・けいれん・しびれ感の精神神経系症状、その他として倦怠感、違和感、悪寒、GOT・GPT・γ-GTP上昇などの肝機能障害、血小板減少症があらわれることがあります。

またショック、アナフィラキシー（※1参照）、多発性硬化症、急性散在性脳脊髄炎、ギラン・バレー症候群が起こる可能性があります。このような症状が認められたり、疑われた場合は、すぐに医師に申し出て下さい。

7. 接種後の注意

- ① 接種当日は過激な運動を避け、接種部位を清潔に保ちます。
(入浴は差し支えありませんが、注射部位を強くこすらないようにしましょう。)
- ② 接種後は健康状態に留意して下さい。局所の異常反応や異常な症状（高熱、けいれん等）を呈した場合は下記までご連絡下さい。

社会医療法人財団 慈泉会 相澤健康センター